

二級河川天白川水系 河川整備計画

平成 21 年 3 月 24 日

(平成 28 年 6 月 3 日一部変更)

愛 知 県・名 古 屋 市

目 次

1. 流域及び河川の概要.....	1
1.1 流域の概要.....	1
1.2 河川の概要.....	4
1.3 河川の現状と課題	7
1.3.1 治水の現状と課題.....	7
1.3.2 水利用及び河川環境の現状と課題.....	13
1.3.3 河川整備に関する住民の意向.....	15
2. 河川整備計画の目標に関する事項.....	16
2.1 河川整備の基本理念.....	16
2.2 河川整備計画の対象区間.....	17
2.3 河川整備計画の対象期間.....	17
2.4 洪水や高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標.....	17
2.5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標.....	18
2.6 河川環境の整備と保全に関する目標	18
3. 河川の整備の実施に関する事項	20
3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設の機能の概要	20
3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所.....	28
3.2.1 河川の維持の目的.....	28
3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所.....	28
3.2.3 河川情報の提供.....	28
附図	
平面図及び縦断図.....	29
参考	
河川整備計画用語集.....	用語集 1

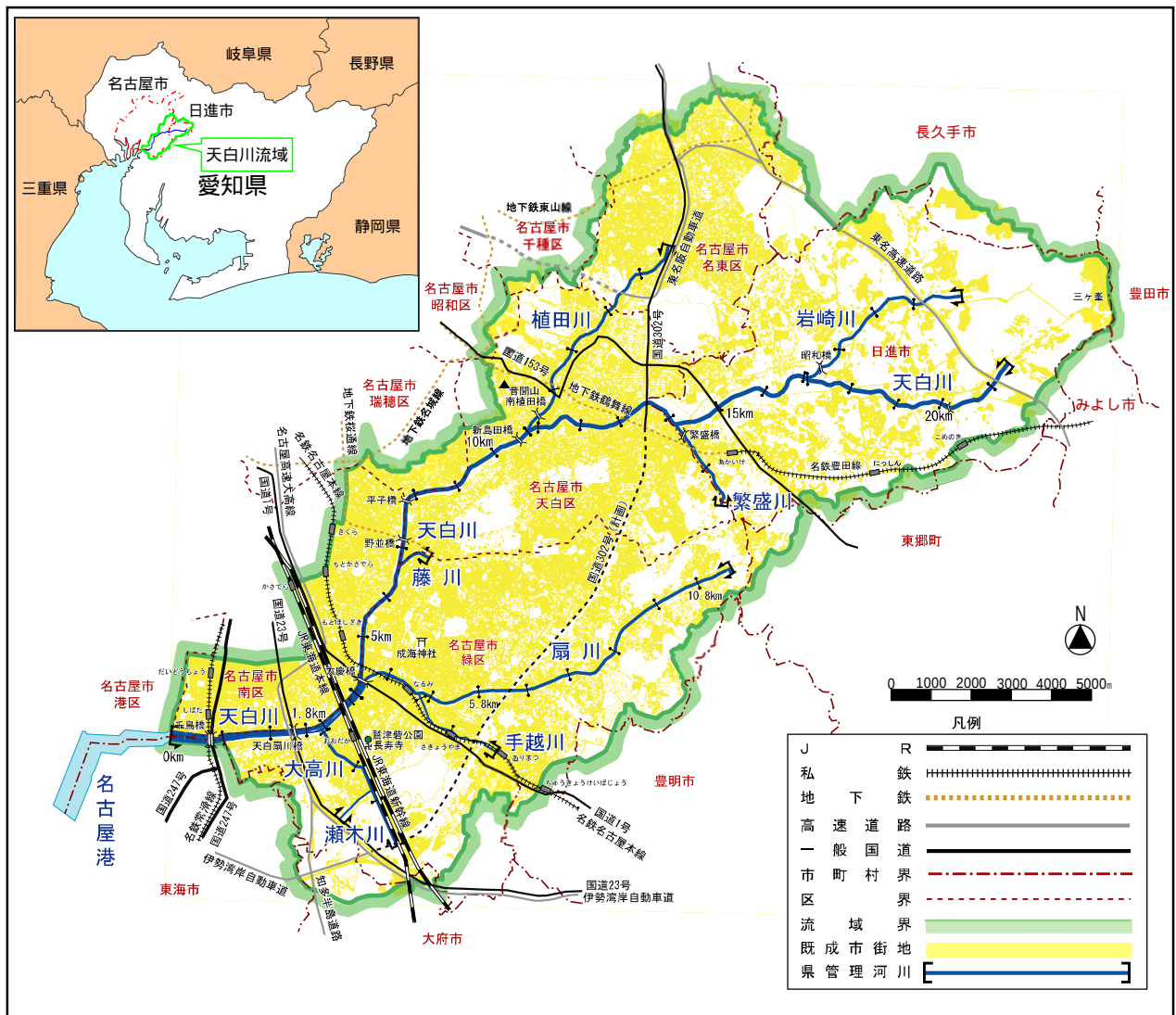
(注)本計画は、平成 28 年 6 月 3 日に一部整備内容の変更を行いました。計画の対象期間は当初策定から概ね 30 年間のまま変更ありません。

1. 流域及び河川の概要

1.1 流域の概要

天白川は、その源を愛知県日進市米野木町三ヶ峯付近（標高約 170m）に発し、岩崎川、繁盛川を合わせ、名古屋市に入り植田川、藤川、扇川を合わせ、港区船見町地内で名古屋港を経て伊勢湾に注ぐ河川延長約 21.5km、流域面積約 118.8km²の二級河川である。

流域は、名古屋市、東海市、大府市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町の 6 市 1 町からなり、このうち名古屋市が約 68%、日進市が約 27%の面積を占めている。平成 12 年時点の流域内の人口は約 62 万人、平成 9 年時点の流域内の土地利用は、宅地等の市街地が約 55%、水田や畑地等の農地が約 29%、森林が約 16%の面積を占めている。



地形・地質

地形については、中上流部が標高約 30～100m の尾張丘陵、下流部が沖積低地からなり、河口部には、干拓地や埋立地が広がっている。

地質については、丘陵地が第三紀鮮新世に形成された東海層群の矢田川累層及び第四紀中期頃までに形成された唐山層及び八事層で構成され、低平地が近世代に形成された沖積層で構成されている。

気候

気候については、名古屋市の平成 17 年から 26 年までの平均年間降水量は約 1,500mm、平均年間気温は 16.2 である。(図 - 2 参照)

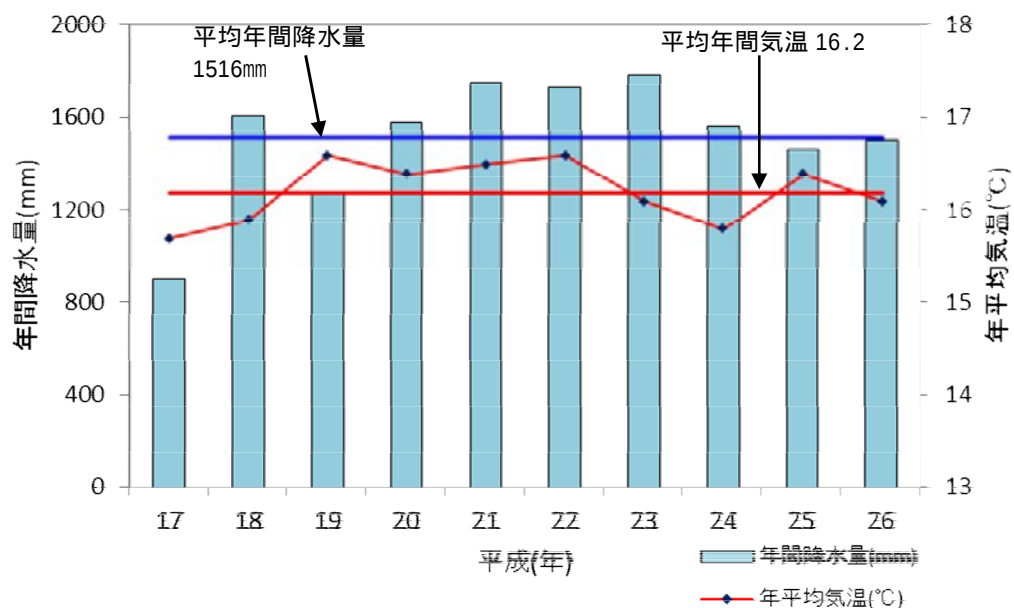


図 - 2 名古屋市の気候

植生

植生については、名古屋市でクロマツ植林やコナラ - クリ群集、日進市でモチツツジ - アカマツ群集が多く分布している。自然植生としては、成海神社（緑区鳴海町）のヤブコウジ - スダジイ群集や音聞山（天白区音聞山）のアラカシ群集がみられ、特定植物群落としては、鷺津砦公園と長寿寺（緑区大高町）のスダジイ林がみられる。

社会環境

名古屋市は、ほぼ全域で市街化されている。日進市は、名古屋市のベッドタウンとして急速に開発が進みつつあるものの農地や森林等が残されている。

主要な交通網については、下流部を国道 1 号や 23 号、鉄道として東海道新幹線や東海道本線、名鉄名古屋本線等が横断し、中上流部を国道 153 号、東名高速道路等が横断している。

天白川流域は、「東海地震に係る地震防災対策強化地域」及び「南海トラフ地震防災対策推進地域」に位置している。

歷史

かつて、天白川の植田川合流点下流には、^{あゆちがた}年魚市潟と呼ばれる浅瀬が広がっていた。この年魚市潟も長い年月の間に堆積され陸化し、現在の沖積平野となり、鎌倉時代には鳴海潟となった。その後、海岸や天白川の堤防整備によって、湿地帯が干拓されて水田となった。江戸時代には、さらに新田開発が活発になったために、天白川の堤防も下流へ延長され、ほぼ現在の位置で伊勢湾に注ぐ形態となった。(図 - 3 参照)

「^{ありまつ}有松紋^{なりみじゆく}り」で有名な有松(緑区有松町)は、国道1号に並行する旧東海道の鳴海宿(緑区鳴海町)と池鯉鮒宿(知立市)の間の宿として設けられ、江戸末期の町並みを今に残している。(写真 - 1 参照)



図 - 3 濃尾平野における埋立・干拓年代 出典「新修 名古屋市史 自然編 平成9年3月」



写真 - 1 有松の町並み 出典「なごや観光 100 選 名古屋市」

1.2 河川の概要

天白川水系を構成する天白川と 9 つの二級河川を表 - 1 に示す。

表 - 1 天白川水系の河川

河川名	天白川	扇川	手越川	大高川	瀬木川	藤川	植田川	繁盛川	岩崎川
河川延長 (km)	21.5	9.8	2.0	2.9	1.0	0.6	4.8	1.9	4.0
流域面積 (km ²)	118.8 (48.3)	30.1 (19.2)	3.6	7.2 (4.6)	2.6	6.2	21.0	2.3	10.9

() : 支川を除く流域面積

天白川

法河川上流端から植田川合流点（河口から約 10.8km）までの上流部は、川幅約 15～70m で、有堤河道と掘込河道が混在しており、有堤河道の最大の堤防比高は約 4m である。名古屋市内には高水敷があり、低水護岸が整備されている。背後には、日進市で農地や森林等、名古屋市で市街地が広がっている。

植田川合流点から野並橋（河口から約 7.1km）までの中流部は、川幅約 70m の有堤河道で、最大の堤防比高は約 7m である。両岸に高水敷があり、低水護岸が整備されている。高水敷には公園やサイクリングロードが整備され、市民の憩いの場として利用されている。背後には、市街地が広がっている。

野並橋から河口までの下流部は、扇川合流点（河口から約 2.7km）までの上流は、川幅約 70～80m、下流は、川幅約 80～200m の有堤河道で、最大の堤防比高は約 5m である。大慶橋（河口から約 4.2km）付近から下流では高潮堤防が整備され、上流では引堤及び河床掘削が行われ護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。なお、河口から千鳥橋（河口から約 0.8km）付近までは、名古屋港の港湾区域と重複している。

扇川

扇川は、緑区鳴海町地内で左支川手越川、緑区大高町地内で左支川大高川（左支川瀬木川を有する）を合わせ、同地内で天白川に合流する。河川延長約 9.8km、川幅約 10～60m の河川である。上流部の河道は掘込河道で、下流部の河道は有堤河道で、護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。

（平成 23 年 4 月より名古屋市が管理している）



写真 - 2 天白川
（岩崎川合流点 16.8km 付近）



写真 - 3 天白川
（植田川合流点 10.8km 付近）



写真 - 4 天白川
（扇川合流点 2.7km 付近）



写真 - 5 扇川
（手越川合流点 4.5km 付近）

手越川

手越川は、緑区鳴海町地内で扇川の中流部へ合流する、延長約 2.0km、川幅約 6～9m の河川である。河道は上流部では掘込河道で、下流部は有堤河道で、護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。
(平成 23 年 4 月より名古屋市が管理している)



写真 - 6 手越川
(くるまみち 車路橋 0.1km 付近)

大高川

大高川は、緑区大高町地内の水主ヶ池かこがいけより、JR 東海道本線に沿って大高町地内を北西に流下し、途中、瀬木川を合流して扇川下流部へ流入する、延長 2.9 km、川幅約 10～28m の河川である。河道は上流部では掘込河道で、下流部は有堤河道で、護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。
(平成 21 年 4 月より名古屋市が管理している)



写真 - 7 大高川
(扇川合流部 0.0km 付近)

瀬木川

瀬木川は、緑区森の里もりのさと一丁目地内で大高川中流部へ合流する、延長約 1.0km、川幅約 6～7m の河川である。河道は掘込河道で、護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。
(平成 21 年 4 月より名古屋市が管理している)



写真 - 8 瀬木川
(瀬木橋 0.1km 付近)

藤川

藤川は、天白区古川町ふるかわ地内で天白川に合流する河川、延長約 0.6km、川幅約 10～30m の河川である。河道は有堤河道で、護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。
(平成 21 年 4 月より名古屋市が管理している)



写真 - 9 藤川
(天白川合流部 0.1km 付近)

植田川

植田川は、天白区道^{どうみょう}明町地内で天白川に合流する河川延長約 4.8km、川幅約 20～30m の河川である。河道は掘込河道で、護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。

(平成 23 年 4 月より名古屋市が管理している)



写真 - 10 植田川
(南植田橋 0.5km 付近)

繁盛川

繁盛川は、日進市赤池町^{あかいは}地内で天白川に合流する河川延長約 1.9km、川幅約 6m の河川である。河道は掘込河道で、護岸が整備されている。背後には、市街地が広がっている。



写真 - 11 繁盛川
(繁盛橋 0.4km 付近)

岩崎川

岩崎川は、日進市野方町^{のかた}地内で天白川に合流する河川延長約 4.0km、川幅約 15～30m の河川である。河道は、上流部では掘込河道で低水護岸が整備されており、下流部では有堤河道で護岸が整備されている。背後には、上流部では市街地や農地が広がり、下流部では農地が広がっている。



写真 - 12 岩崎川
(昭和橋 0.4km 付近)